

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	開設2年9ヶ月と3年近くなり、御入居者様の機能低下が大きくなり、介護に要する関りの時間がかかり過ぎて余暇活動で楽しんで頂くことが少なくなっている。グループホーム本来の目的である一緒に家事をすることの出来る現状も少なくこれを問題点として捉え、どう取り組んだら改善出来るのかを課題とする。	2時～3時の間余暇活動を毎日取り入れる。 昼食・夕食準備時、声掛けをして台所で一緒に作業が出来る方はして貰い、テーブルに座って出来る下準備作業は声掛けして貰う。お茶いれ・おかず盛り付け・汁物注ぎ・ご飯注ぎを皆が何か役目をもてるようにしていく。	職員の確保。人員を増やし時間的な余裕を持つ。 余暇活動担当者を決める。 提供する内容計画を立てる。 食事準備割り振りは、メニューが決まり次第、何を誰に、どのようにして貰うのか食事作り担当者と決め実行出来るよう説明と声掛けをして見守る。	1年
2	2	災害対策、火災や地震・水害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けると共に地域との協力体制を築く方針で運営推進会議の中で話は進めているが、まだ具体的な協力体制は取れていないので、本格的に強い協力体制を築くことを課題とする。	ご利用者の安全確保、命を守る事が事業所だけで抱え込める問題ではなく、広く地域の方々の協力を得ながら安心して暮らせるための取組みを目標としたい。	9月に地域合同で避難訓練を実施する。 地域との緊急連絡網を作成する。 近隣の協力体制としてお願いの挨拶に行き連絡網に電話番号記載させてもらう。 年2回の地域合同避難訓練を実施し地域の方々に多く参加協力してもらう。	1年
3	#3	事業所と地域のつきあいは出来ているし地域ボランティアも週1回来訪、小学生も年2～3回は訪問している。職員の子供も自由に出入りしてご利用者と接している。さらに踏み込んで地域の方々をもっと自由に出入りしたり、小学生が学校帰りに遊びに来てご利用者と馴染みの関係を作る事を課題にしたい。	地域の方々へ遊びに来て頂き、ご利用者とお話出来る環境を整備していく。 小学生が学校帰りに立ち寄り、ご利用者と話せる環境作りを整える。 ボランティアを増やす活動をして行く。	地域を回り理解して頂けるように話していく。 小学校へお話しに行きかぎっ子がいれば事業所でお年寄り夕方までふれあって頂く取組みをする。又お年寄りと話したい子供がいれば自由に来て頂く。 ボランティアの募集を告知する。	1年
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。